



帝京大学 宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター
教授

横山明子

アセスメント・ツールとしての 適性検査の意義と効用

キャリアガイダンスやキャリアカウンセリングにおいては、様々な適性検査が用いられる。この適性検査には、知能や汎用的能力などの「能力」を測定する検査、性格や興味などの「人格」を測定する検査、さらに、職務遂行能力や特定の職業分野に関する職業適性検査などがある。これらの検査は、クライアントの様々な特性を明らかにするだけでなく、この検査によって、希望する職業や業務に対して適性があるかどうかについて評価とアセスメントを行うことができる。本稿では、この適性検査について取り上げ、アセスメント・ツールとしての意義と効用について考えてみたい。

「アセスメント (assessment)」や
「評価 (evaluation)」のこと

適性検査を行う場合に大切なことは、「評価 (evaluation)」と「アセスメント・査定 (assessment)」との違いを認識することである。この両者はいずれもクライアントの特性を把握するために行うが、検査の結果をどのように用いるのかによって区別される。前者の「評価 (evaluation)」とは、もともとは学校などの教育活動の中で、教育目標に照らして、生徒や学生の学習の結果や成果がどの程度達成されたかについて最終的に判断することである⁽¹⁾。一方、「アセスメント・査定 (assessment)」は、学習の結果、及び教育目標の達成に向けての最善の方策に関する情報をフィードバックし、さ

らに、様々な教育活動を継続的に行うことを意味している。

このことを職業適性検査にあてはめると、「評価 (evaluation)」は、クライアントがある特性や職業分野に対してどの程度適合しているかを最終的に判断することである。一方、「アセスメント・査定 (assessment)」とは、検査結果と、職業選択のための様々な情報をクライアントにフィードバックすることによって、自己理解を促進し、今後、どのように活動を進めるかを考え実践していくことである。

ここで、クライアントにフィードバックされる情報は、単にある特性や職業に対しての最終的な適合度だけではなく、様々な特性を示すプロフィールや、適合度の高い職業名やその職務内容など多様な情報である。そのため、クライアントは、これらの情報を活用して、これまで知り得なかった特性への理解を深め、希望する職業や職種⁽²⁾の幅を広げることができる。このことから、職業適性検査は「評価ツール」にとどまらず、「アセスメント・ツール」として位置づけることができる。

「適性」とはどのようなことか

次に、このような適性検査を用いる場合、検査によって測定される「適性」は重要な概念である。そこで、この「適性」について明らかにしておきたい。

通常、適性検査を受検した場合に、ある特性に対して最終的に、適性が「あ

る」「ない」、または、適性が「高い」「低い」と示されることが多く、クライアントは一元的に考えることが多い。そのため、この検査結果を見て、自分が希望する職業に就けないと失望し、予想外の結果であった場合には混乱してしまう。たとえ検査結果とともに、様々な特性や職業分野に関する情報が提供されても、クライアントは、この結果は、現時点でのある分野に対する適合度であると捉え、将来、発達するであろう適性に注目するということは非常に少ない。

この「適性」は、能力に関する側面、人格に関する側面、身体的特徴に区分される。能力に関する側面には、知能、運動能力、学力、技能、特技などが含まれ、人格に関する側面には、性格、興味や関心、価値観、態度などが挙げられる。さらに、身体的特徴とは、体格や体力、健康に関することである。このような「適性」に関する考え方には、特に、能力に関して「未開発のもの」が含まれることを示している。すなわち、「適性」を現時点のものと限定的に考えるのではなく、将来、本人の努力によって発達する可能性を含めて「適性」をとらえる考え方である。

このような考え方に基くと、特にクライアントの興味や関心が高い分野においては、「好きこそものの上手なれ」という言葉が示すように、現時点で能力がそれほど高くなくても、長い間粘り強く取り組んでいるうちに「能力」

が大きく伸長する場合もある。そのことによって、職業分野や職務について新たな適性が見いだされる可能性があるのである。さらに、職業適性検査で示される結果は、キャリアアカウンセリングの場面で、クライアントの新たな可能性を発見し、将来の職業選択肢を増やし、その実現可能性を考えるための資料として活用できるのである。

適性検査の意義と効用

キャリアアカウンセリングでは、様々な心理検査が適性検査として用いられるが、検査を行う目的として次の4点が挙げられている⁽²⁾。

① 深層心理の解明とカタルシス

投映法などの検査の場合、自分の抑圧された感情や問題が明らかにになり、クライアントにとってはカタルシス(浄化)を経験することになる。これは、普段意識していない考えや感情を意識化することであり、特に、不安に思っていたことが明らかにになり、クライアント自身に安心感と開放感をもたらすのである。

② 短時間で多面的な情報の収集

通常、クライアントの状況を知るためには、クライアントの考えや感じ方などを長い時間をかけて傾聴し理解する必要がある。しかしながら、特に、自分の気持ちや考えを言語化することが難しいクライアントの場合や、相談の時間が限られている場合には、いくつかの検査を併用することによって、

問題を焦点化して短時間に有用な情報を得ることが可能である。

さらに、特に職業適性検査においては、自分の遂行能力や興味が高い職業分野が示されるだけではなく、その分野の具体的な職業名や職種、さらにその分野で活躍するための知識やスキルについての情報が提供される。そのため、特に、進学などを考えている若年層の場合に、また、リスキリングを望む積極的なクライアントの場合には、進学前に多種類の情報を知っておくことが、進学後の学習に対するモチベーションの高さに影響する。

③ 自己理解の促進

アセスメント・ツールとして適性検査を用いた場合には、提供される様々な情報によって自己理解が促進されるが、それと同時に、カウンセラーにとっても、クライアントへの洞察が深まる。適性検査の結果についての受け止め方は、いくつかに分かれる。まず、クライアントにフィードバックされた結果と情報に対して、自分が普段考えていた通りであり、自分の適性が確認できたという場合がある。また、検査結果が予想と違っていたが、新たな発見があつてよかったと肯定的に受け入れるクライアントもいる。このような場合には、フィードバックされる情報から、今まであまり考慮してこなかった職業に関する知識などを得ることができたため、今後の進路を考えるために有用な情報が得られたと感じているのである。

その一方で、示された結果が自分の予想と大幅に違っていた場合に、検査結果を受け入れることができずに混乱してしまうクライアントもいる。このような場合には、もともと自己理解が十分ではなく、普段思い描いている自己像と結果で示された内容が大きく異なっていることからそう感じるものである。このような場合には、結果だけでなくそこで提供される情報から、じっくりと自分を見つめなおし、今後のキャリアビジョンを持てるよう支援を行っていくことが重要である。

私が、適性検査の活用に関する講習会に参加した際に、適性検査の作成者から「適性検査は、天気予報のようなものである」ということを聞きし、判定された進路を強く希望しているクライアントがいた場合、その進路に進むことを断念させるかどうかという重大な問題と関連している。例えば、私たちが待ちに待ったレジャーに出かける日に、天候が悪くなると予報が出た時はどうするであろうか。台風来襲などのよほどの悪天候が予想されている場合を除いて、風雨対策をして、多少の計画変更をしても出かけることが多いのではないだろうか。この例のように、適性検査の結果の判定は全てではなく、その進路に進んだ場合には困難が伴うことを知ったうえでクライアントの強い希望と意思を尊重していくことも大切なことである。

④ リレーシヨンの形成

適性検査をアセスメント・ツールとして用いてカウンセリングを行うことは、クライアントとの関係性を深めるということである。すなわち、カウンセラーが適性検査の結果についてクライアントとコミュニケーションをとり、クライアントの状態を共感的に理解することによって、カウンセラーへの信頼が一層高まるのである。こうして、カウンセラーがクライアントの姿を映す「鏡」の役割となることができれば、クライアントの自己理解は一層深まり、その後の活動も積極的に実践できるようになるであろう。

このように、アセスメント・ツールとして適性検査を活用しカウンセリングを行うことによって、クライアントは不安が解消され、自己洞察を深め、新たな自分を発見することができる。この両者で共有した時間が、クライアントに大きな成長をもたらす有意義な時間になることを忘れてはならない。

【引用文献】

(1) 京都大学高等教育研究開発推進センター
教育アセスメント
<http://www.higheedu.kyoto-u.ac.jp/assessment/> (2023年3月1日アクセス)

(2) 野々村新「第4章 児童生徒理解の意義と内容」(横山明子編著「生徒指導・進路指導・キャリア教育論 主体的な生き方を育むための理論と実践」図書文化社、pp. 73-94)、2019